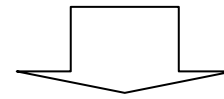


調査結果及び教科学習評価における内容別・観点別分析・クロス集計による分析

1年	2年	3年
<p>(歴史)</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本的用語に対する知識・理解はあるが、時代の流れ或いは各時代の結びつきに関する認識が低い。 <p>(地理)</p> <ul style="list-style-type: none"> 主な国に関する関心はあるが、国名を覚えるなど、学習への意欲が低い。また、国際情勢について関心が高いが、その背景を深く考える意欲が低い。 	<p>(歴史)</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会的事項への関心や知識理解に個人差が見られ、時代背景などの深い部分への理解が低い。 <p>(地理)</p> <ul style="list-style-type: none"> 地理的な事象や社会的事項への関心や知識理解に個人差が見られるが、都道府県名などを覚えようという意欲は高い。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会的事項への関心、基本的な事項の理解、などは概ね良好であるが、社会的思考・判断については、他の観点に比べた場合、やや達成度が低い。



指導方法の課題分析と具体的な授業改善及び補充指導の計画

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充・発展指導計画
一 年	<p>(歴史)</p> <ul style="list-style-type: none"> 各時代の特色を理解するとともに、歴史の流れを把握する。 <p>(地理)</p> <ul style="list-style-type: none"> 世界の各地域の理解を深める取組は行っている。 資料を積極的に活用する。 	<p>(歴史)</p> <ul style="list-style-type: none"> 各時代の関わり合いを生徒自ら考察し、時代の流れを読み取れるようにする。科学的な歴史の見方を身につけさせる。 <p>(地理)</p> <ul style="list-style-type: none"> 世界の各地域に関するデータ資料を使い、資料の分析力をつけ、その意義も理解させる。 	<p>(歴史)</p> <ul style="list-style-type: none"> 個々の歴史的事象を理解するとともに、広い視野で歴史を把握できるようにする。 <p>(地理)</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒自身で様々な資料を読み取り、問題解決ができるような課題を提示する。
二 年	<p>(地理・歴史)</p> <ul style="list-style-type: none"> 多くの生徒に興味関心を持たせ、基本的な事項の理解を定着させるような工夫が必要である。 資料の読み取りが得意ではない生徒も多い。 基礎知識に関しては、小テスト、再テストなどの反復を行っているが、定着していない。 	<p>(地理・歴史)</p> <ul style="list-style-type: none"> 身近な話題や答えやすい質問などを取り入れることによって、社会科が好きでない生徒も興味を持って臨む事が出来るような授業にしていく。 パワーポイントを用いた ICT 教材を活用し、資料の読み取りなど応用力を身につけていく授業を行う。 小テスト、再テストなどの反復を引き続き継続して行っていく。 	<p>(地理・歴史)</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書にない事柄についても折りに触れて話題にしたり、調べ学習を取り入れたりする。 資料の読み取りから社会的事象を多面的。多角的に読み取る練習を多く行う。
三 年	<p>(歴史・公民)</p> <ul style="list-style-type: none"> できごとや事柄の理解とともに、社会的な思考・判断力をつけるような指導方法の工夫が必要とされる。 	<ul style="list-style-type: none"> 新聞や ICT などを使って時事問題を取り入れて、学習内容が現在の社会にどうつながっているのかを理解させるとともに、平和や幸福とは何かなど抽象的な課題も考えさせる。また、わかったことや自分の考えを書かせ提出させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書にない最新の事柄についても話題にし、新聞、ニュースなどへの意欲を高め、調べ学習を取り入れたりする。 課題についての話し合いや意見発表など取り入れる。